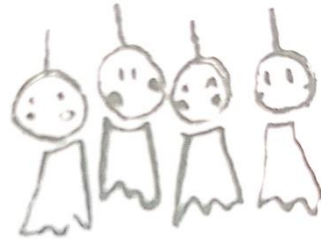


2021・12・9

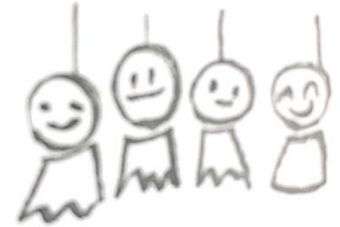


illustrated by kurumi **Vol・64**

『子どもが「いじめられた！」と帰ってきたら』 いのはなはるこ

6人の子育てをすると、母もありとあらゆる経験をします。
毎日が野球のノックのようです。簡単に取れるボールもあり、取れないこともあり。
6人が今までいろんな顔で「ただいま」と帰ってきました。
長男・次男は本人よりも先に学校からお電話があり、謝ったことも多々あり。
たまには「〇〇ちゃんにいじめられたー！」と帰ってくることもあります。

「子どものケンカに親は出ない」と行かれればいいのですが、
今の世間はそれを許してはくれません。大人の問題になります。
我が家ではその子にまず話を聞いて大袈裟に反応します。
「ひどいね！そんなことされたの？イヤだったね！」
それから「先生に訊いてみようか？」と言うと、
「うーん、いいや、またやられたら先生に言う！」と言う時、
「先生にママから言ってみて」と言う時があります。
子どもの話は自分の都合の良いように作っています。真実はわかりません。
それでも、「痛かった」「悲しかった」「傷ついた」からママやパパに話したのです。



ついつい「やり返せばいいじゃない！」とか「あなたも悪かったんじゃない？」
と口から出そうになりますが、自分で解決できていたらそもそも話しません。
ママには裁判官や警察官や先生になって欲しいわけじゃないんですよね。
ただ「痛かったね」と言って欲しいのです。解決はそれからです。
傷ついて帰って来たら、まずはママに言葉のばんそうこうを貼ってもらいたいのです。

そして、これも、ついついですが、ママも自分の気持ちを隠してしまいます。
「子どもの成長のためだ」とか「強い子にしゃなきゃ」とか「自分で解決すべき」とか。
本当はママも悲しいのですよね。大事なうちの子が痛い目に合って……。
それを隠さなくてもいいのだと思います。「ママも〇〇ちゃんが痛い思いして悲しい」と
言っているのだと思います。「だから、一緒に作戦考えようね。」と言ったら。
一回すべてを受け止めてくれる人がいたら、意外と自分でまた切り替えていきます。
泣き付くのは末っ子だけになりました。
上の子たちは私以上に大袈裟に「それはひどい！お姉ちゃんが行ってやる！」と
騒いでいます。